『UNIV.CO-OP』377
全国大学生協連第 54 回通常総会
大学生協共済連第 1 回通常総会　特集号

〈全国大学生協連第 54 回通常総会〉
理事会からのあいさつ

歴史の流れと大学生協の役割

全国大学生協連会長理事　　庄司　興吉

皆さん、おはようございます。全国的に大分寒くなってまいりましたが、ようこそお集りくださいました。昨日は、皆さん夜遅くまでいろいろと交流されたと思いますが、これからが総会の本番ですから、どうぞ目をパッチリと開いて総会の議事に望んでいただきたいと思います。私からは、歴史の流れと大学生協の役割というテーマで冒頭の挨拶をさせていただきます。

21 世紀最初の 10 年

21 世紀に入って、最初の 10 年が終わろうとしています。皆さんが感じていらっしゃるように、大変な 10 年間でした。

まず、「9・11」の同時多発テロから始まって、それにたいする、アメリカの「テロとの戦争」がありました。テロに過剰に反応して、アメリカが戦争をしているあいだに不況になり、それがやがて 2008 年の金融危機にまでつながっていきました。しかし、その間に中国やインド、その他の国ぐにが経済的にだけでなく政治的・文化的にも成長してきました。そういうことが、アメリカに跳ね返っていって、08 年のアメリカの大統領選挙で、史上初のアフリカ系アメリカ人の大統領が誕生しました。

その後の不況対策にはいわゆる新興国を含んだＧ20 が開かれるようになり、先進国や主要国だけの会議から、新興国も含んだ会議へと移行してきました。09 年には、そういう背景の下で日本の総選挙が行われ、実質戦後初めてともいえる政権交代が起こったわけですが、民主党政権のその後は「迷走」といわれるような経過をたどり、日本の政治は混迷しています。その間に、日本の北と南でいわゆる領土問題をめぐるトラブルもあり、ナショナリズムのようなものが台頭したりしてきています。

国際政治主体の対等化と市民民主主義の普及

しかし、私たちは、歴史の大きな流れ、基本の趨勢を見失ってはいけないと思います。中国やインド、ASEAN 諸国などの台頭による国際政治主体の対等化は、基本的には健全なことです。それに加えて、そのずっと前から、途上諸国の民主化、ソ連東欧の解体などによって、市民民主主義が普及してきていま

す。インドはもともと市民民主主義の国であり、中国もやがてそうなっていかざるをえないでしょう。北朝鮮の瀬戸際外交などに、あまり振り回されないようにしなければなりません。

そういう前提のもとで、市民がそれぞれの国家をつうじて、現代的な金融資本を規制していくことが必要です。G20 というのも、そういう役割を果たすための機関として機能しはじめているのです。いわゆる新自由主義の限界が露呈し、一時は廃れたといわれた第二次世界大戦後のケインズ主義が、ある意味で国際的な形をとって復活してきている。私はそれを「国際ケインズ主義」などと呼んでいますが、そういう事態が進んできているのです。もちろんこれも、将来的には国連の強化などをつうじて、もっと公平公正な社会経済の調整に進化していく必要があると思いますが。

市民の事業としての協同組合と大学生協

それと並行して、私たち普通の市民が自分たちの事業を広めていくという動きも進んでいます。このことはとても大切なことで、そのもっとも有力な形態が協同組合です。協同組合の国際連帯の組織であるＩＣＡ（国際協同組合同盟）の働きかけなどもあり、国連は１年前に、2012 年を国際協同組合年とするよう決定しました。それを受けて日本でも、協同組合憲章をつくろうとする動きなどが始まり、いろいろな行事が行われようとしています。

日本の大学生協は、日本における協同組合の源流の一つです。第二時世界大戦後、生活のために先輩たちが必死でつくり、学生運動などの影響も受けてきたので、まだ十分に協同組合としての性格、歴史のなかでもつ意義、を理解しきれていない面があるかもしれませんが、源流の一つです。他方、日本の協同組合として活躍してきている農協、漁協、地域生協、信用組合その他の組織も、必ずしも市民の事業という意識でやってきているとは言えないかもしれません。そこで、むしろ大学生協が、自らの事業をあらためて市民の事業として位置づけ、日本における協同組合運動の発展に指導性を発揮してかなければいけないのです。

世界的な大学の危機と大学生協の役割

他方、大学は今、皆さんもご存知のように、大変な状態になっています。今年の学生の就職率は今の段階で６割を切るという状態です。海外でも、例えばイギリスでは、学費値上げの動きに学生が反対運動を展開し、暴動状態にすらなっています。国際的に大学への進学率が高まってきている今、大学を 21 世紀市民育成の場として正式に位置づけ、その費用負担については、国際的な共通理解をつくっていかなければいけません。大学生協はそういうなかで、日本の大学をきちんと位置づけ、大学と協力して、学生の経済的負担の軽減、キャンパスライフの充実などを図っていかなければならないのです。

そのためにまず、生協らしいきめ細やかな配慮に基づいた協同をしなくてはなりません。それをつうじて、貧困化、不適合、学習困難などに悩む学生たち

を支援していかなくてはなりません。そのうえで、大学と協力して、高等教育の費用を学生や父母たちだけにしわ寄せせず、社会の責任を明確にしていく必要があるのです。そのためにも、生協自身は、組織的、財政的、そして情報的にきちんと自立して、その自立度をたゆみなく高めていかなければなりません。そのために、組合員の皆さんに、もっと生協を利用していただく、生協のその他のいろいろな活動に参加してもらう、それらをつうじて、学生と教職員の力を結集し、社会にグローバルな企業の規制の必要性、市民の事業の拡大の必要性を訴えていかなくてはならないと思います。そういう意味で、大学生協が協同組合というものの意義を社会に広めていく必要があるのです。

大きな夢をもって前進しよう

最後に私は、20 世紀の偉大な人権運動活動家マーティン・ルーサー・キング牧師の言い方を借りて、「私たちには夢がある」と言いたいと思います。それは、私たちの活動が、これからどんどん広がっていって、いつの日か、私たちの学生たちが、大学生協の活動のなかで経験したことや学んだことを基礎に、いろいろな形の、たくさんの、社会的協同組合をつくり、日本の社会を「協同・協力・自立・参加」の社会にしていく、という夢です。大学生協は「協同・協力・自立・参加」を使命としていますが、それらが社会全体の使命となり、目標となるように、そういう社会を創っていくことに大学生協も貢献していかなくてはならないのです。そういう少し遠いところまでも見すえながら、身近にたくさんの問題がありますので、それらについて、今日これから私たちは議論していかなくてはなりません。そういう議論に積極的に参加していただき、また新しい年の大学生協の活動を盛り立てていっていただきたいと思います。

以上を持って、私のあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。